

株主・投資家の皆様へ

株主通信

2023年中間期(1~6月)



Contents

- 1 JT Group Purpose
- 2 TOP MESSAGE/2023年度 第2四半期決算報告
- 4 たばこ事業・医薬事業・加工食品事業実績
- 7 JT TOPICS
- 16 2023年度 第2四半期連結財務諸表
- 18 会社概要/株式の状況/株主メモ
- 19 役員一覧/株価の推移



心の豊かさを、もっと。

私たちJTグループは、これまでずっと、
心豊かに生きるための「とき」と向き合ってきました。

科学やテクノロジーの進化、価値観の多様化。
どんなに時代が変わっても、私たちは、
今ここにある何気ない瞬間にも喜びを見つげられる、
心の豊かさを大切にしたいと思っています。

ありのままの自分を認められる「とき」
大切なひとと喜びを共有する「とき」
それぞれを認め合って、高め合って過ごす「とき」
そんな素晴らしい「とき」の積み重ねが、
素晴らしい毎日をつくり、素晴らしい人生をつくる。
そしてきっと、社会、世界、未来までをも、よりよくしていく。

JTグループは、提供してきた心の豊かさを、次のステージへ。
より多くのお客様やパートナーと、さまざまな事業や取り組みを通じて、
社会に心の豊かさを育んでいきます。

「今日もよい一日だった」と感じられる心豊かな社会のために、
私たちができることのすべてを。

JT Group Purposeについて

社会・事業環境が非連続に変化していく中で、社会とその中に存在するJTグループの事業が持続可能であるために、目指すべき方向を示すものとして、JT Group Purposeを策定しております。時代や人により、多様に変化していく「心の豊かさ」の領域を今後も社会から任せられ、貢献できる存在であり続けるため、JTグループは絶えず進化していきます。JT Group Purposeの実現に向けた、我々のこれからの価値創造の考え方を整理した「価値創造プロセス」、JT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために特定した5つの課題群「JT Group Materiality」も策定しております。

JT Group Purposeに込めた想い、「価値創造プロセス」及び「JT Group Materiality」の詳細については「統合報告書2022」にて詳しく記載しておりますので、ぜひご覧ください。

統合報告書2022は[こちら](#)からご覧いただけます

底堅い総需要と持続的なシェア伸張、堅調なプライシングにより力強い実績。ポジティブな為替動向を反映し、財務報告ベースの通期業績見込みを上方修正



代表取締役社長
寺 島 正 道

2023年度 上半期実績 (2023年1-6月)

2023年上半期、全社利益管理指標である為替一定ベース*1の調整後営業利益*2、すなわち為替影響や特殊要因を除いた営業利益は、たばこ事業におけるプライシング効果が発現し、商品構成の悪化やHTS*3に関する投資の増加、サプライチェーンコストの上昇影響を上回ったことに加え、医薬事業・加工食品事業における増益が後押しし、前年同期比で4.7%の増加となりました。また、為替影響を含む財務報告ベースの調整後営業利益は、すべての事業において増益を達成し、円安によるたばこ事業でのポジティブな為替影響も後押しし、前年同期比で6.7%の増益となりました。

2023年度 業績見込

財務報告ベースの売上収益、調整後営業利益、営業利益、当期利益のいずれも、当初見込よりも上方修正しています。為替一定ベースcore revenue*4は、たばこ事業における総販売数量の上方修正及び上半期におけるプライシング効果等のモメンタムに加え、医薬事業・加工食品事業においても売上収益を上方修正することから、対当初見込では1.2%の上方修正とし、その結果前年度比では3.2%増加する見込みです。一方、為替一定ベース調整後営業利益は、加工食品事業における上方修正はあるものの、たばこ事業及び医薬事業において当初見込を据え置いたことにより、当初見込と同水準としております。

たばこ事業：為替一定ベースの自社たばこ製品売上収益は、総販売数量の上方修正及び上半期におけるプライシング効果のモメンタムを織り込み、当初見込より0.9%の増加を見込んでおります。一方、為替一定ベ

ス調整後営業利益は、インフレーションに伴う人件費等の間接コストの増加、Combustibles*5・RRP*6双方への追加的な投資の実施、スーダンにおける事業一時停止に伴う原材料の廃棄損を含む一時的なネガティブ影響を反映した結果、当初見込から据え置きとしております。財務報告ベースの自社たばこ製品売上収益及び調整後営業利益は、多くの通貨の前提レートを円安方向に見直したことを受け、当初見込よりそれぞれ1,070億円、140億円上方修正し、前年度比3.7%増の2兆4,000億円、前年度比5.8%減の7,100億円を見込んでおります。

医薬事業：売上収益は、鳥居薬品における増収に加え、円安による海外ロイヤリティ収入の増加を見込むことから、当初見込よりも25億円上方修正いたします。一方、調整後営業利益については、研究開発費の増加が売上収益の上方修正を相殺すると見込み、当初見込の135億円を据え置いております。

加工食品事業：売上収益は、冷食・常温事業における外食需要の回復早期化による業務用製品の売上収益伸長等を織り込み、当初見込よりも75億円上方修正いたします。調整後営業利益は、売上収益を反映し、当初見込より15億円の上方修正といたします。

「Ploom X」のパフォーマンスと地理的拡大

将来にわたる利益成長のため、HTSへの投資を加速化しております。日本においては、MEVIUSブランドのたばこスティックをリニューアルし、高品質な製品をよりお求めやすい価格で新発売したことに加え、デバイスの期間限定ディスカウントキャンペーンを実施するなど、ユーザーのさらなる獲得・定着に向けた取り組みを進めております。その結果、競争が激化する環境下においても、Ploom XのHTSカテゴリ内シェア伸張は継続しております。また、海外展開も順調に進捗しており、6月のチェコにおけるPloom X 上市により、現在は6市場で販売を開始*しており、9月にはスイスにおいて上市する予定です。2023年度末には14市場、2024年度末には28市場への上市を完了する見込みです。上市済のマーケットのお客様からは、ベイパーの量やデバイスの加熱速度、スティック1本当たりの使用可能時間、価格等について良好な反応が寄せられております。今後も各マーケットで得られた知見をグローバルに活用し、ユーザーの獲得・定着に努めてまいります。

※ 一部エリア/販売店

株主還元

資本市場における競争力ある水準として、配当性向75%を目安とし、強固な財務基盤を維持しつつ、中長期の利益成長を実現することにより、株主還元の向上

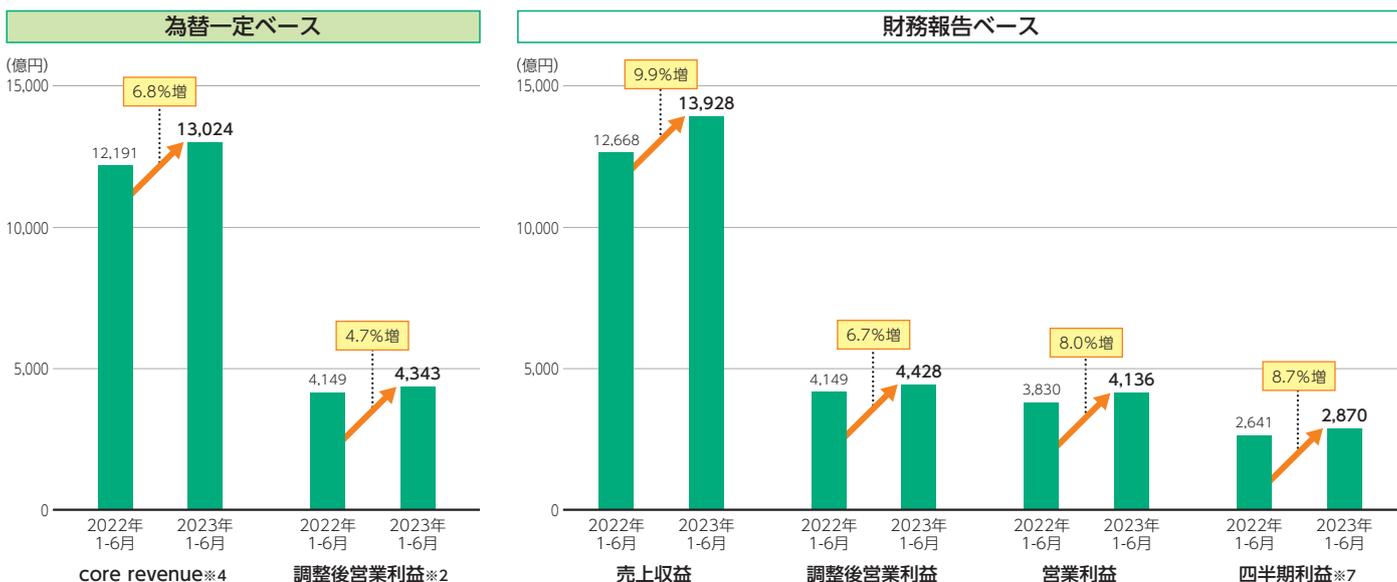
を目指してまいります。株主還元方針に則り、2023年度の1株当たり年間配当金予想は、当初お示した188円から変更なく、中間配当金は94円をお支払いいたします。

2023年度上半期は、たばこ事業におけるプライシング効果の発現、複数市場における底堅い総需要とシェア伸張に支えられ、力強い実績となりました。医薬事

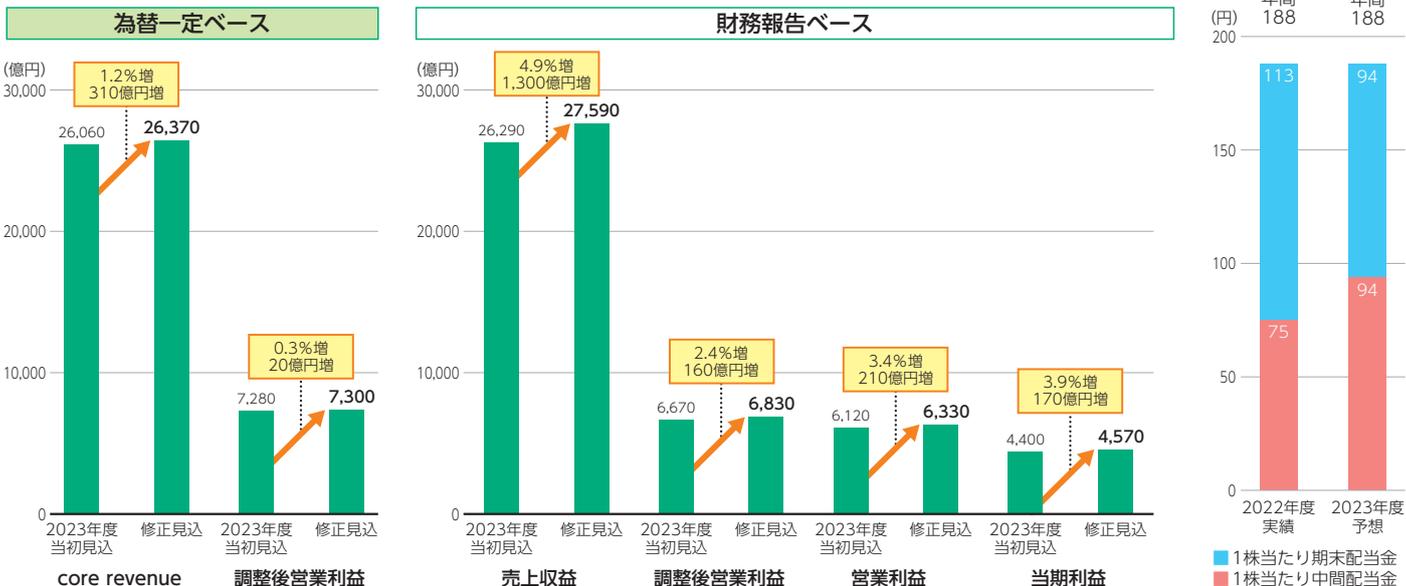
業・加工食品事業も増益となり、グループ全体の利益成長を補完しています。今後も、経営理念である4Sモデルに則り適切な経営判断を下し、グループ一丸となって通期業績見込み達成に向けて進んでいくとともに、JT Group Purpose・各事業における Purpose の実現に向けた取組みを継続していきます。

※決算発表内容の詳細については、JTウェブサイト掲載の各種資料(こちら)をご覧ください。

2023年度 第2四半期決算 全社実績



2023年度 全社見込



*1 前年同期の為替レートをを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標

2 営業利益+買収に伴い生じた無形資産に係る償却費+調整項目(収益及び費用)

* 調整項目(収益及び費用)=のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等

*3 高温加熱型の加熱式たばこ

*4 自社たばこ製品売上収益、医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益の合計

*5 製造受託 / 水たばこ / 加熱式たばこ / 無煙たばこ / E-Vapor を除く可燃性のたばこ製品。当社製品ポートフォリオにおける heated tobacco sticks (HTS), infused tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる

*6 喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品

*7 親会社の所有者に帰属する四半期利益/当期利益

たばこ事業

「Creating fulfilling moments. Creating a better future.」を事業Purposeとして策定し、JTグループの中核事業として中長期的な持続的利益成長を志向

今期のポイント

- 自社たばこ製品売上収益は、ロシアや英国をはじめとした多数の市場におけるプライシング効果の発現、EMAクラスターや日本での堅調な総販売数量が後押しし、力強い実績
- 調整後営業利益は、市場構成比、複数市場における商品構成影響の悪化や、サプライチェーンコストの上昇、Ploom Xの地理的拡大に伴う投資増加があったものの、自社たばこ製品売上収益の伸長により増益
- 為替影響については、上半期を通じて自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益ともにポジティブに発現したものの、第2四半期の3ヶ月においては、一部現地通貨が円高方向に推移したためネガティブに発現

業績サマリー

総販売数量※1

2,693億本

前年同期比

+66億本↑
+2.5%↑

自社たばこ製品売上収益

1兆2,172億円

前年同期比

+1,119億円↑
+10.1%↑

調整後営業利益

4,502億円

前年同期比

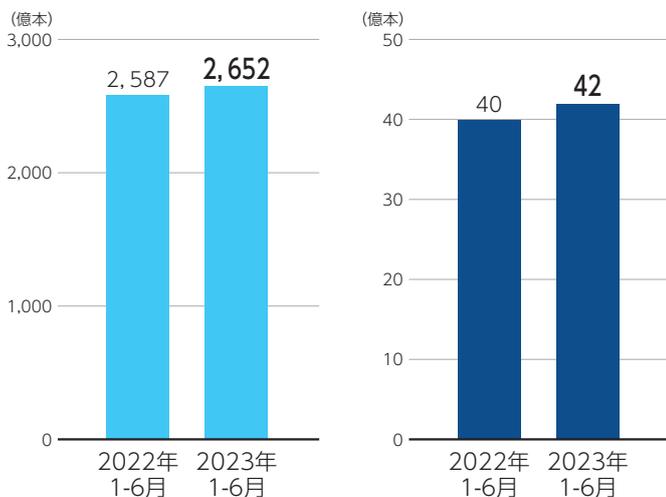
+251億円↑
+5.9%↑

主要市場シェア

	2022年 1-6月	2023年 1-6月	増減
日本	42.1%	42.8%	+0.7%pt
フィリピン	36.6%	40.1%	+3.5%pt
台湾	48.7%	50.1%	+1.4%pt
イタリア	22.8%	22.9%	+0.1%pt
スペイン	28.0%	28.0%	+0.0%pt
英国	44.6%	43.9%	-0.7%pt
ルーマニア	27.3%	27.2%	-0.1%pt
ロシア	36.6%	37.0%	+0.4%pt
トルコ	28.0%	27.2%	-0.8%pt

出典:市場シェアは、JTグループ内部データ等。特に言及がない限り、2023年1月から6月までの平均ベース
イタリア及びフィリピンは2023年1月から5月までの平均ベース
シェアは、combustibles及びHeated Tobacco Products (HTP)のたばこ総需要に基づいて計算
フィリピン、台湾はcombustiblesのみの市場シェア
トルコはRMCのみの市場シェア

販売数量実績



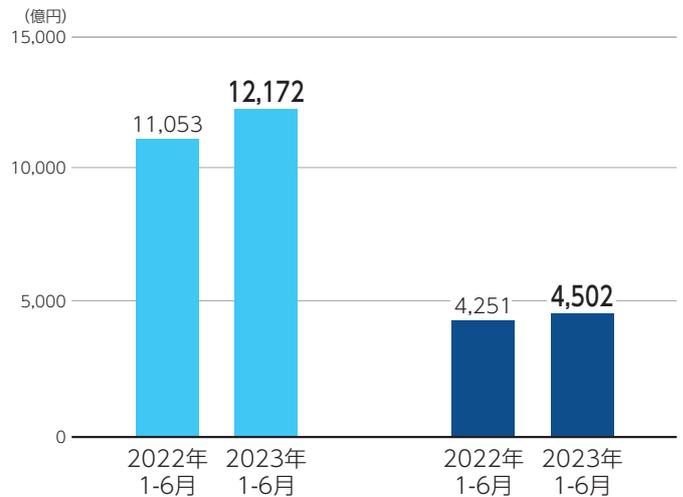
Combustibles販売数量※2

RRP販売数量※3

※1 水たばこ/製造受託/RRPデバイス及び関連アクセサリを除くたばこ製品の販売数量

※2 水たばこ/E-Vapor/無煙たばこ(Snus・ニコチンパウチ)/加熱式たばこ/製造受託を除くたばこ製品の販売数量

財務実績



自社たばこ製品売上収益※4

調整後営業利益

※3 Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数 (RMCとして換算)。デバイス/関連アクセサリ等は含まない

※4 物流事業/製造受託等を除く売上収益

クラスター別内訳[※]

(単位：億円)

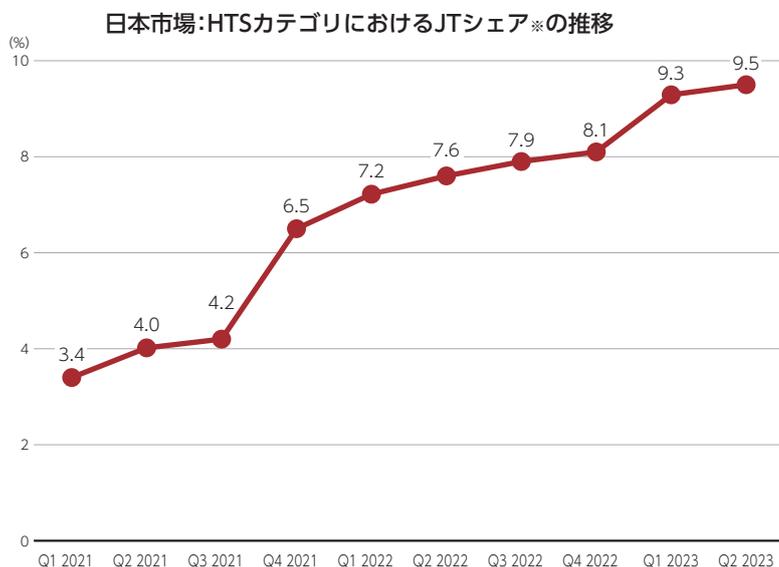
科目	2022年 1-6月	2023年 1-6月	増減率
Asia			
自社たばこ製品売上収益	4,005	3,926	-2.0%
調整後営業利益	1,565	1,452	-7.2%
Western Europe			
自社たばこ製品売上収益	2,679	3,030	+13.1%
調整後営業利益	1,282	1,379	+7.5%
EMA			
自社たばこ製品売上収益	4,369	5,217	+19.4%
調整後営業利益	1,404	1,672	+19.0%

※ JTグループのたばこ事業をより深く理解していただくために、同事業を3地域のクラスター（Asiaは日本を含むアジア全域、Western Europeは西欧地域、EMAは東欧、中近東、アフリカ、トルコ、南北アメリカ大陸及びGlobal Travel Retail*を含む）に区分けしたものの

*従来の国内たばこ事業と海外たばこ事業の免税市場を統合した呼称

Ploom Xの国内パフォーマンス

- 競争が激化する環境下においても、HTSカテゴリ内シェア伸張は継続



※JT推計（出荷ベース）

Ploom Xの地理的拡大

- 2023年末時点の14市場での販売開始に向け、順調に進捗
- 2024年末時点で28市場において販売を見込む

Ploom Xの海外展開[※]状況

国名	投入時期
英国	2022年10月
イタリア	2023年4月
リトアニア	2023年4月
ポルトガル	2023年5月
チェコ	2023年6月
スイス	2023年9月(予定)

※一部エリア/販売店で販売を開始

医薬事業

「科学、技術、人財を大切に、患者様の健康に貢献します。」を事業Purposeとして策定し、次世代戦略品の研究開発及び各製品の価値最大化による持続的利益成長を志向

今期のポイント

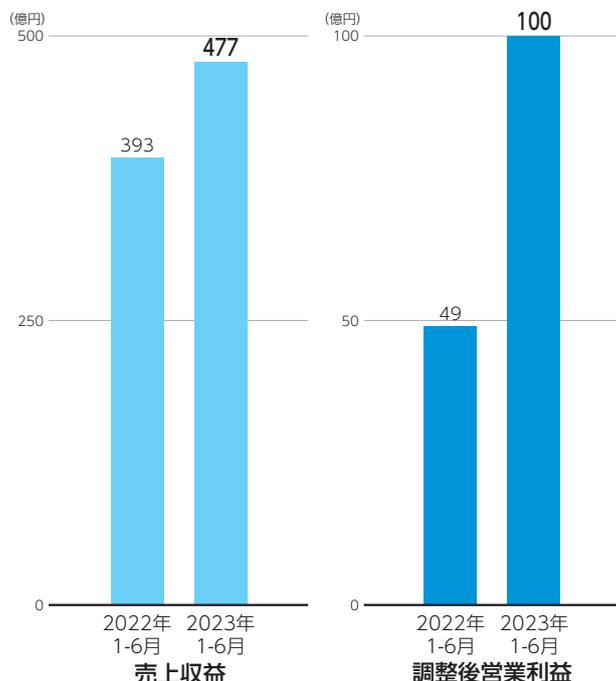
●売上収益は、導出品のライセンス契約に係る一時金収入及び鳥居薬品における皮膚疾患領域・アレルギー領域の売上伸長により前年同期比で増収。調整後営業利益は、売上収益の増収により、研究開発費の増加があったものの、前年同期比で増益

業績サマリー

売上収益
477 億円
前年同期比
+84億円↑
+21.3%↑

調整後営業利益
100 億円
前年同期比
+52億円↑
+106.5%↑

財務実績



加工食品事業

「食事をうれしく、食卓をたのしく。」を事業Purposeとして策定し、質の高い売上収益獲得による持続的利益成長を志向

今期のポイント

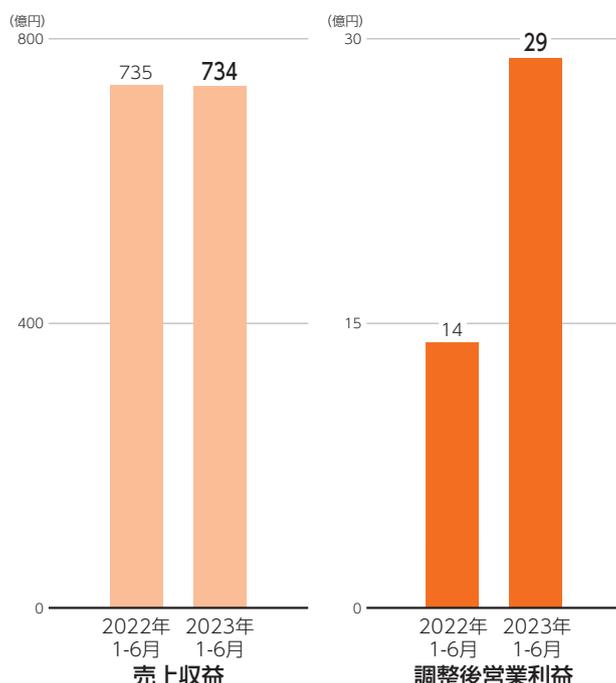
●売上収益は、冷食・常温事業において、価格改定効果及び業務用製品の売上収益伸長効果があるも、ベーカリー事業譲渡に伴う売上収益の剥落により、前年同期と同水準。調整後営業利益は、価格改定効果、業務用製品の売上収益伸長効果が、原材料費等の大幅な悪化を相殺し、前年同期比で増益

業績サマリー

売上収益
734 億円
前年同期比
-1億円↓
-0.1%↓

調整後営業利益
29 億円
前年同期比
+15億円↑
+103.5%↑

財務実績



加熱式たばこに新ブランド「with」が誕生 インフューズドたばこ用デバイス「ウィズ2」



JTは、加熱式たばこにおいて新ブランド「with(ウィズ)」を立ち上げ、インフューズドたばこ*1用デバイス「ウィズ2」を、2023年9月5日より順次、全国のコンビニエンスストア及びたばこ販売店等にて発売します。また、8月7日より、CLUB JTオンラインショップにて先行発売しています。

新ブランド「ウィズ」は、“周囲との心地よい関係と自分だけの時間やリズム、そのどちらも大切にしながら自然体でいること”を提案する、インフューズドたばこのブランドです。いつも自分らしくいられるたばことして、お客様の日常に寄り添います。

インフューズドたばこ用デバイス「ウィズ2」は、イン

フューズドテクノロジー*2を搭載しており、吸った瞬間に蒸気が発生するため、加熱待ち時間ゼロを実現しています。また、たばこ葉を直接加熱しないので、たばこにおいてをほぼ感じず、燃焼に伴う副流煙が発生しません。さらに、加熱によって発生するたばこの雑味を抑えることにより、クリアなフレーバーを実現し、澄み切った味わいを体験いただけます。

加えて、本デバイスはボタン1つで2つの加熱モードを切り替えられる、デュアルモードを搭載しています。ハイモードにすると、さらに際立つフレーバーをお楽しみいただけます。

- *1 加熱式たばこの一種で、リキッド(液体)を加熱することで発生させたベイパー(蒸気)をたばこ顆粒の入ったカプセルに通過させ、味・香りを抽出したたばこベイパーを愉しむ商品です。たばこ葉を直接加熱しないため、たばこにおいてをほぼ感じず、燃焼に伴う副流煙が発生しないことが特徴
- *2 コーヒーやお酒で使用されている、香りを染み込ませる技術をヒントに、霧化したリキッドがたばこ顆粒の入ったカプセルを通過してたばこベイパーを発生させる技術

担当者の声

JT GLOBAL TOBACCO BUSINESS MARKETING PRODUCT & BRAND/コピートフ マキシム

インフューズドたばこの「ウィズ2」は独自のインフューズドテクノロジーで『パッと、好きなときに』『サッと、さりげなく』『フワッと、フレーバー広がる』の3つの特徴を実現しています。お客様には、この3つの特徴が生み出す「周囲に配慮しながら、自分らしく楽しめる」新しい体験をお楽しみいただけることを期待しています。

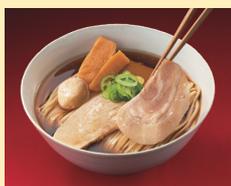


具材の満足度が高い 有名店監修 「まるぐ」ラーメン2品を全国発売

テーブルマーク株式会社では、具材、麺、スープにこだわった有名店監修の冷凍具付ラーメンの新シリーズ「まるぐ」2品を、9月1日より全国で発売します。

らぁ麺やまぐち監修 まるぐ 鶏コクラーメン

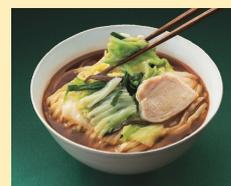
鍋調理 レンジ調理 1食入 286g



名店「らぁ麺やまぐち」監修のこだわりの5種類の具材(鶏スライス、豚チャーシュー、鶏団子、ねぎ、メンマ)をトッピング。鶏ガラの香り引き立つ味わい深い醤油ベースのスープとご一緒にお楽しみください。

麺屋武蔵監修 まるぐ えび香る魚介ラーメン

鍋調理 レンジ調理 1食入 331g



名店「麺屋武蔵」監修のこだわりの具材(白菜、ニラ、きくらげ、鶏スライス)をトッピング。えび油と鶏ガラの香り引き立つ味わい深いスープとご一緒にお楽しみください。

担当者の声

テーブルマーク マーケティング戦略部 麺カテゴリ/戸田 菜々美

お客様の声より生まれたのが“具材の満足度の高いラーメン”、「まるぐ」シリーズです。有名店監修のもと、具材の種類や量にこだわることで、お客様の満足を実現しています。また、「スープ」「麺」にもこだわりをもって作りました。独自製法により、ラーメン専門店の作り方を再現した「スープ」や、10時間以上熟成した風味豊かな「麺」で、完成度の高い商品となっています。



山芋焼

レンジ調理 1食入 255g



国産米粉と1/3日分の国産野菜で作った生地はふわとろ食感。特製醤油だれでさっぱりとした味わいです。

※1日の野菜摂取目安量350gに対し、1/3を使用しています。生野菜換算(仕込み時)厚生労働省「健康日本21」より

五穀ごはん3食

レンジ調理 熱湯調理 3食入 450g(1食150g)



国産の黒米、赤米、もち米「きたゆきもち」、もち麦「きらりもち」、丸麦「ファイバースノウ」を厳選ブレンドし、国産のうるち米と一緒に炊き上げました。

おいしさで選ぶフリー食「BEYOND FREE(ビヨンドフリー)」

さまざまな理由から多様な食生活を送るお客様のために、テーブルマーク株式会社では、卵や乳、肉類、塩分、糖質などの特定の食材や成分をカットしながらも本格的な味わいが楽しめる、おいしさで選ぶフリー食「BEYOND FREE(ビヨンドフリー)」を提供しています。おいしさにこだわった多彩なメニューを公式オンラインショップ「食+(ショクダス)」にて展開しておりますので、ぜひご覧ください。

商品の提供を通じて、誰もが食べたいものを自由においしく楽しめる社会の実現を目指してまいります。

オンラインショップ「食+(ショクダス)」: <https://shoku-tasu.jp/>



JT初となるメタバース空間上でJTグループのサステナビリティの取組みを体験できる「JT Tobacco Farm」を公開

JTは、メタバース空間を利用し国内の葉たばこ農場を再現した「JT Tobacco Farm」を公開しました。葉たばこ農場のバーチャル見学などJTグループのサステナビリティの取組みを体験でき、くつろげる空間でのユーザ同士の交流などもお楽しみいただけます。

今後もより一層サステナビリティに関する取組みを推進していくとともに、ステークホルダーの皆様に向けて既存の枠組みを超えた新たな情報発信に取り組んでまいります。



【JT Tobacco Farm】

公開先 : VRChat上 ワールド検索から「JT Tobacco Farm」を選択

プラットフォーム : VRChat (PC版・MetaQuest版)
費用 : 無料
対応言語 : 日本語、英語

※ご利用にあたっては、「VRChat」への登録が必要となります
「VRChat」のご登録に関するお問い合わせはJTでは承れませんので、あらかじめご了承ください

「南海堺駅前喫煙所」が街の防災をサポート 『もしも』の際に役立つ3つの防災機能付き喫煙所へリニューアル

JTは、喫煙所を少しでも地域に役立てたいという想いから、大阪府堺市にある南海堺駅前第1指定喫煙所を「防災喫煙所 イツモモシモステーション」としてリニューアルしました。本喫煙所は、「そなえる喫煙所」として、『もしも』の際に役立つ「ソーラーパネルによる屋外LED照明」、「防災倉庫機能」、「防災啓発」の3つの防災機能が付いています。

今後もJTは堺市と連携し、本喫煙所を通して、地域の皆様の防災意識向上に貢献してまいります。

「防災喫煙所 イツモモシモステーション」の詳細は、JTウェブサイト「まちかどTOPPING」ページ [こちら](#) をご覧ください。



JTが参画する共同プロジェクトが開発 ノンアルコールドリンクのための新テクノロジー「COLDRAW」

JTが参画するオープンコラボレーションプロジェクト「Sober Experience Studio (ソバー・エクスペリエンス・スタジオ)」は、世界的に高まるウェルネス・ノンアルコールトレンドのソリューションとして、植物本来の味わい・色彩を10分以内で抽出するテクノロジー「COLDRAW (コールドロー)」を開発しました。本プロジェクトへの参画は、JT Group Purposeの具現化に向け、ビジネスシーズ探索等を行うJT組織であるD-LABが、JTグループならではの価値を提供するための研究開発として取り組んでいるものです。今後も、JTグループの持続的利益成長実現のため、幅広い可能性を探索してまいります。



「スポーツエールカンパニー2023」に初認定

JTは、2023年2月17日、スポーツ庁が実施する「スポーツエールカンパニー2023」に初めて認定されました。

「スポーツエールカンパニー」とは、従業員の健康増進のためスポーツの実施に向けた積極的な取組みを行っている企業に対して、スポーツ庁が認定する制度です。

JTでは、従業員の多様性を尊重しており、従業員の健康支援においても、個々人の生活環境や価値観に基づき、自分に合った自分らしい健康づくりができるよう、多様性に根差した取組みを行っております。その一環として、健康意識の向上及び運動習慣のきっかけ作りを目的とし、「ウォーキングラリー」、「JT健康づくりプログラム」等の取組みを展開しています。

今後も、従業員の健康増進のため、従業員のスポーツ実践に向けた積極的な取組みを推進してまいります。



「健康経営優良法人2023 ホワイト500」に7年連続で認定

JTは、2023年3月8日、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2023（大規模法人部門、以下「ホワイト500」）」に7年連続で認定されました。

「ホワイト500」とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる大規模法人の中で、健康経営度調査結果の上位500法人を認定する制度です。

私たちは、従業員一人ひとりが心身ともに健康で持てる力を最大限に発揮できるよう、経営トップ主導のもと、全国11カ所の主要エリアに専門の産業保健スタッフ（医師、保健師）を配置するなど充実した健康支援体制を構築し、自分に合った自分らしい健康づくりを念頭に「多様性に根差した取組み」を行っております。加えて、働きやすい職場づくりの一環として、フレックスタイム制度や在宅勤務等、「多様な働き方」を選択・実現できる制度の充実を図っております。

さらに2022年より「健康支援費用補助」制度を導入し、従業員やその家族の健康状態に応じて、自ら選択した検査や予防接種等の費用に対し一定金額の補助をしています。

今後も、従業員の健康増進を重要な経営課題のひとつと位置づけて、積極的に取り組んでまいります。



個人投資家向けオンライン会社説明会開催のご案内

JTでは、個人投資家の皆様にJTの経営戦略や事業活動をご理解いただく機会として、2023年9月25日（月）19時より、オンライン会社説明会（説明者：代表取締役副社長 中野恵）を開催予定です。詳細については下記ウェブサイトをご確認ください。多くの株主様のご参加をお待ちしております。



代表取締役副社長
中野 恵

Company Hotline JTオンライン会社説明会

詳細は[こちら](#)

第39回株主総会における 株主総会資料(要約版)の送付について

2022年9月1日施行の改正会社法により、株主総会資料*の電子提供制度が開始されました。JTでは制度導入初年度の対応として、第38回定時株主総会におきましては、書面交付請求の有無に関わらず、一律に従前どおり書面でお送りしました。次回（第39回）の株主総会におきましては、印刷した全文の株主総会資料は送付せず、決算概要や議案内容を要約した印刷物をお送りする予定です。

インターネットのご利用が困難等で、従前と同様に株主総会資料（交付書面に記載しない事項を除く）の書面が必要な株主様は、お取引の証券会社又は以下のJT株主名簿管理人へ書面交付請求のお手続きをお願いいたします。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター

電子提供制度専用ダイヤル

 0120-696-505（平日9：00～17：00）

※間違い電話が多くなっております。番号をお確かめの上、ご連絡をお願いいたします

*株主総会参考書類(議案)、事業報告、監査報告、計算書類、連結計算書類

株主優待における寄付についてのご報告

JTでは、株主優待商品の贈呈に代えて、その相当金額を地震や台風、豪雨災害等の被災地支援、また、今後の災害時支援を目的とした「災害復興支援に対する寄付」としてお選びいただける選択肢をご用意しております。

今回、2022年12月31日現在の株主様を対象とした株主優待においては、7,369名の株主様にご選択いただき、その合計金額33,143,500円を2023年7月31日に社会福祉法人中央共同募金会「赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金』（ボラサポ）」へ寄付いたしました。ご協力いただきました株主の皆様へ、厚く御礼を申し上げます。



※株主様への預かり証は発行いたしかねますのでご了承ください

※株主優待制度は、2023年の発送をもって廃止となります。2024年以降の優待品のお届けはございませんので、ご了承ください

「最大の感動を。」

勝利へのひたむきな姿勢や迫力あるプレーを通じて感動をお届けしています



JTサンダース広島



設立年	1931年ごろ（時期等詳細不明）
ホームタウン	広島県
主な 獲得タイトル	V・プレミアリーグ（優勝1回） V.LEAGUE DIVISION1（準優勝1回） 天皇杯・皇后杯（優勝3回、準優勝3回） 黒鷲旗（優勝4回、準優勝6回）

試合スケジュールや観戦ガイドなど、JTサンダース
広島の詳細は[こちら](#)



JTマーヴェラス



設立年	1956年
ホームタウン	兵庫県、大阪府
主な 獲得タイトル	V・プレミアリーグ（優勝2回、準優勝1回） V.LEAGUE DIVISION1（優勝1回、準優勝3回） 天皇杯・皇后杯（優勝1回） 黒鷲旗（優勝5回、準優勝5回）

試合スケジュールや観戦ガイドなど、JTマーヴェ
ラスの詳細は[こちら](#)

JTバレーボールチームのグッズは[こちら](#)

2023年度日本代表登録メンバー

名選手を輩出する日本屈指のチーム「JTサンダース広島」「JTマーヴェラス」より、9名の選手が2023年度日本代表登録メンバーに選ばれました。



新井 雄大

三輪 大将

西川 有喜

林 琴奈

和田 由紀子

田中 瑞稀

小川 愛里奈

粉井 あき

目黒 優佳

将棋日本シリーズ JTプロ公式戦／テーブルマークこども大会

こどもから大人まで誰もが、将棋を自分らしく自由にとことん楽しめる。みる・指す・ふれあう将棋日本シリーズだから体験できる心の豊かさを育む特別な「とき」がここにはあります。

JTプロ公式戦



「JTプロ公式戦」は、トップ棋士12名による公開対局を全国11都市で開催しています。

藤井聡太JT杯覇者は、昨年、史上最年少及び、史上初のこども大会出身者での優勝を果たしました。

9月9日の二回戦第二局熊本大会は藤井聡太JT杯覇者と菅井竜也八段の対局。今後ますます白熱するトップ棋士同士の戦いが続きます。

「JTプロ公式戦」の詳細は[こちら](#)

TableMark こども大会



「テーブルマークこども大会」は、将棋を覚えたてのお子さまも気軽に参加できるこども将棋大会を、全国11都市で開催しています。大会の後は、同日・同会場で開催する「JTプロ公式戦」を間近で観戦することができます。

「テーブルマークこども大会」の詳細は[こちら](#)

ゴルフ日本シリーズJTカップ



「ゴルフ日本シリーズJTカップ」は、厳しい出場資格をクリアしたトッププレーヤー30名が出場する国内男子ゴルフメジャー最終戦です。昨年は、谷原秀人選手が大会史上6人目となる連覇を達成しました。

60回目の節目を迎える今大会では、どの選手が王者に輝くのか注目が集まります。



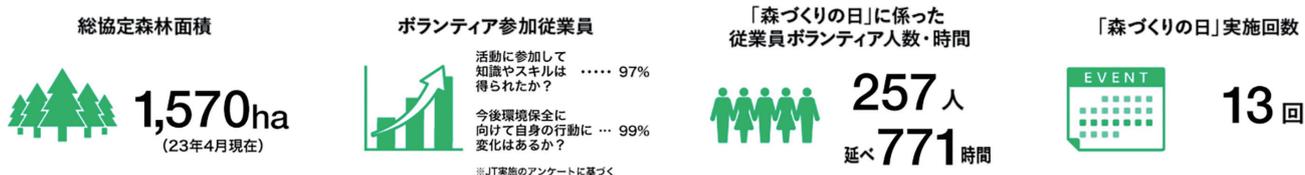
会場／東京よみうりカントリークラブ 出場総人数／30名

「ゴルフ日本シリーズJTカップ」の詳細は[こちら](#) ※2023年大会の詳細は順次公開いたします

「JTの森」について 私たちJTは、森を育て守っています

JTグループは各事業において、葉たばこや紙、野菜など植物を中心とした自然由来の原材料を使用しています。「JTの事業を支えてくれる自然環境を大切にしていきたい」との思いから、自然環境保全の一環として、森林保全活動を全国9カ所で進めています。「JTの森」は森を一定の期間借り受け、足りていなかった森の手入れを支援する仕組みです。地元の森林組合や住民の方々にもご協力をいただきながら、JTの社員や家族もボランティアとして作業を行っております。活動の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

〈2022年活動実績〉

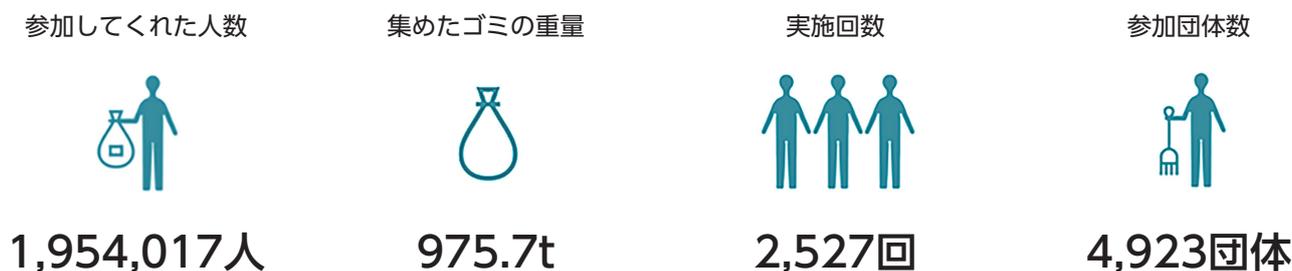


「ひろえば街が好きになる運動」について

JTでは「ひろえば街が好きになる運動」という清掃活動を行っております。「『ひろう』という体験を通じて、『すてない』気持ちを育てたい。もっともっとすてない人を増やしたい。」このような願いから生まれたこの活動は、自治体、学校、ボランティア、各催事の実行委員会や共同団体など、さまざまな人たちとゴミをひろう活動です。本活動の詳細、及び今後の活動予定については[こちら](#)をご覧ください。

JTはこれからも、日本中にマナーを広めるべく、「ひろえば街が好きになる運動」を推進してまいります。

〈活動実績〉2004.05.03～2022.12.31

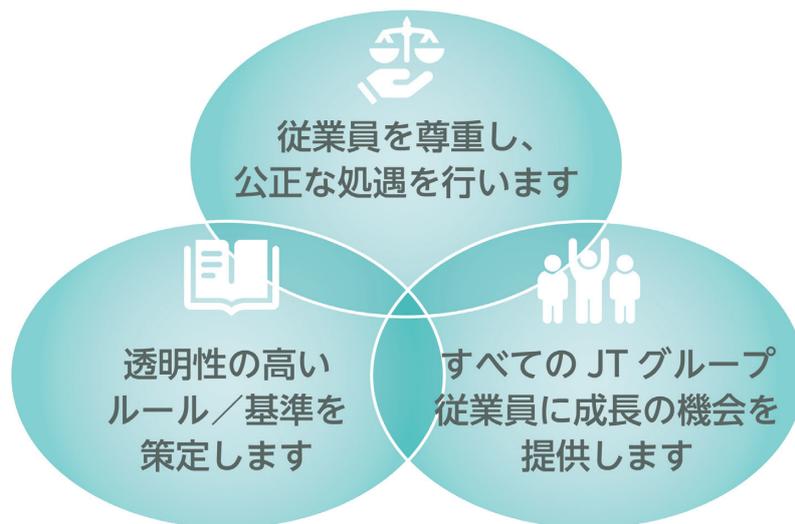


JT企業CMのリニューアルについて

「心の豊かさを、もっと。」というJT Group Purposeのもと、JTはより多くのお客様やパートナーと、さまざまな事業や取組みを通じて、社会に心の豊さを育んでいきたいと考えます。上記でご紹介した「JTの森」「ひろえば街が好きになる運動」もそのような取組みの一環です。それぞれの活動をユーモアを交えた雰囲気の中で表現したCMを放映しておりますので、[こちら](#)よりぜひご覧ください。

JTグループの人財マネジメントポリシー

JTでは、JTグループの持続的な成長に資するべく、「人財の多様性こそ、競争力の源泉である」との認識のもと、従業員に対して、下図に掲げる責任を中長期にわたり高い次元で果たしてまいります。



従業員はJTグループにとって財産であり、従業員の能力と意欲こそが企業活動の原動力となっています。

従業員や社会から選ばれる企業でありたいと考えており、より良い職場環境と企業文化を通じて優秀な人財を惹きつけるとともに、従業員がやりがいを持ち続け、質の高いパフォーマンスを発揮できるよう努めています。

このことを念頭に、以下を重点分野として取り組んでおりますので、ご紹介いたします。なお、詳細については[こちら](#)にも掲載しておりますので、ご覧ください。

・人財の育成と定着

従業員のエンゲージメントを高め、長期的な定着、仕事の生産性や質の向上につなげるためには、それぞれの従業員の状況に合わせたさまざまな機会を提供することが不可欠だと考えています。JTグループではマネジメントを含むすべての従業員に継続的な人財投資を行うことで、従業員一人ひとりが自らのキャリアをよりよいものとしていくことができるよう後押ししています。

・従業員エンゲージメント

JTは従業員とのエンゲージメントを重視しており、多面的に従業員とのコミュニケーションを図っています。2022年には、全世界5万人以上の従業員を対象に、JTグループの全事業で初めて同じ質問を用いたグループ全体の従業員エンゲージメントサーベイを実施しました。

今後も役員主導のもと、明確かつ透明性の高いコミュニケーションを重視した取組みを推進してまいります。

・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン

JTでは、多様性の推進を経営計画の課題の一つとして位置付け、取組みを行っています。職場におけるジェンダー平等の推進、柔軟な職場環境の構築、育児や介護をしている社員への支援など、多様で公平かつ包括的な文化を促進するための継続的な取組みは、社外からも評価されています。

2023年度 第2四半期連結財務諸表

(注) 記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております

連結財政状態計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 12月末	2023年 6月末	増減金額
資産			
流動資産合計	2,723,591	2,903,529	179,938
非流動資産合計	3,824,487	4,070,826	246,339
有形固定資産	775,957	810,150	34,193
のれん	2,446,063	2,654,306	208,242
無形資産	246,442	237,291	△9,151
投資不動産	9,495	8,497	△998
退職給付に係る資産	57,792	67,593	9,801
持分法で会計処理されている投資	56,943	54,017	△2,926
その他の金融資産	140,366	158,379	18,013
繰延税金資産	91,430	80,595	△10,836
資産合計	6,548,078	6,974,355	426,277

【ご参考】

資産合計

為替影響によるのれんの増加等により増加

(単位：百万円)

科目	2022年 12月末	2023年 6月末	増減金額
負債及び資本			
負債			
流動負債合計	1,562,664	1,528,895	△33,769
非流動負債合計	1,368,653	1,495,742	127,089
負債合計	2,931,317	3,024,637	93,320
資本			
親会社の所有者に帰属する持分	3,540,435	3,867,642	327,207
資本金	100,000	100,000	—
資本剰余金	736,400	736,400	—
自己株式	△490,183	△489,722	462
その他の資本の構成要素	104,309	343,723	239,414
利益剰余金	3,089,909	3,177,241	87,332
非支配持分	76,326	82,075	5,749
資本合計	3,616,761	3,949,717	332,957
負債及び資本合計	6,548,078	6,974,355	426,277

負債合計

営業債務及びその他の債務の減少があったものの、新規国内債の発行、為替影響による社債の増加等により増加

資本合計

在外営業活動体の換算差額の増加、親会社の所有者に帰属する四半期利益の計上による利益剰余金の増加等により増加

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 1-6月	2023年 1-6月	増減金額
売上収益	1,266,828	1,392,812	125,984
売上原価	△507,869	△563,811	△55,942
売上総利益	758,959	829,001	70,042
その他の営業収益	7,881	9,046	1,164
持分法による投資利益	3,623	3,554	△69
販売費及び一般管理費等	△387,491	△428,046	△40,555
調整後営業利益※	414,851	442,832	27,981
営業利益	382,972	413,555	30,583
金融収益	9,886	16,994	7,108
金融費用	△31,873	△57,119	△25,246
税引前四半期利益	360,985	373,430	12,445
法人所得税費用	△95,981	△84,967	11,014
四半期利益	265,004	288,462	23,459
四半期利益の帰属			
親会社の所有者	264,063	287,009	22,946
非支配持分	940	1,453	513
四半期利益	265,004	288,462	23,459

※調整後営業利益＝営業利益＋買収に伴い生じた無形資産に係る償却費＋調整項目(収益及び費用)*

*調整項目(収益及び費用)＝のれんの減損損失±ストラクチャリング収益及び費用等

【ご参考】

営業活動による キャッシュ・フロー

たばこ税及び法人税の支払い、営業債務及びその他の債務の支払い等があったものの、主にたばこ事業による安定したキャッシュ・フローの創出等により収入増加

投資活動による キャッシュ・フロー

投資の取得による支出、有形固定資産及び無形資産の取得による支出等により支出増加

財務活動による キャッシュ・フロー

配当金の支払い等により支出増加

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	2022年 1-6月	2023年 1-6月	増減金額
四半期利益	265,004	288,462	23,459
税引後その他の包括利益	737,897	246,750	△491,147
四半期包括利益	1,002,901	535,212	△467,688
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者	1,000,768	529,343	△471,425
非支配持分	2,133	5,869	3,736
四半期包括利益	1,002,901	535,212	△467,688

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

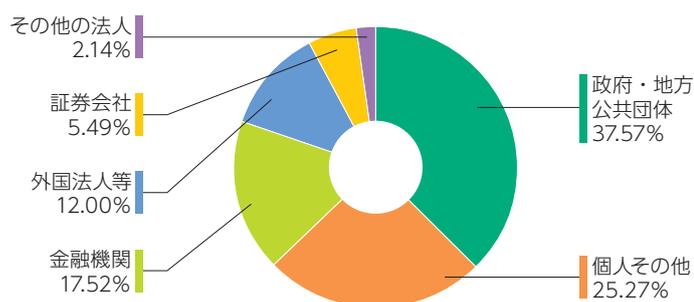
科目	2022年 1-6月	2023年 1-6月	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	110,184	206,860	96,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38,837	△102,651	△63,813
財務活動によるキャッシュ・フロー	△158,153	△163,303	△5,151
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△86,806	△59,093	27,713
現金及び現金同等物の期首残高	721,731	866,885	145,154
現金及び現金同等物に係る為替変動による影響	113,771	19,428	△94,343
現金及び現金同等物の四半期末残高	748,696	827,220	78,524

会社概要

商号	日本たばこ産業株式会社	設立	1985年(昭和60年)4月1日
本社所在地	〒105-6927 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号 TEL.(03)6636-2914(代表) https://www.jti.co.jp/	資本金	1,000億円

株式の状況 2023年6月30日現在

所有者別構成比（自己株式を除く）



発行可能株式総数	8,000,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式 224,934,347株)	2,000,000,000株
株主数	754,245名

株主メモ

決算期 12月31日 定時株主総会 3月

期末配当金支払株主確定日 12月31日 中間配当金支払株主確定日 6月30日 1単元の株式数 100株

公告の方法 電子公告
当社ホームページ (<https://www.jti.co.jp/>) に掲載
※やむを得ない事由により、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人・ 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座管理機関

■事務取扱場所

東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

■お問い合わせ先

東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-232-711 (平日9:00~17:00)

■郵便物送付先

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式に係るお手続き等については、下記当社ホームページをご覧ください。

- 「株式諸手続き」 ページ [こちら](#)

役員 2023年7月1日現在

■取締役

取締役会長	岩井 睦雄
取締役副会長	岡本 薫明
代表取締役社長	寺島 正道
代表取締役副社長	廣渡 清栄
代表取締役副社長	中野 恵
取締役	幸田 真音*
取締役	長嶋 由紀子*
取締役	木寺 昌人*
取締役	庄司 哲也*

*取締役 幸田 真音、長嶋 由紀子、木寺 昌人及び庄司 哲也は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です

■監査役

常勤監査役	柏倉 秀亮
常勤監査役	橋本 努
常勤監査役	谷内 繁*
監査役	稲田 伸夫*
監査役	山科 裕子*

*常勤監査役 谷内 繁、監査役 稲田 伸夫及び山科 裕子は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です

■執行役員

社長	(最高経営責任者、たばこ事業本部長)	寺島 正道
副社長	(コーポレート・サステナビリティマネジメント・医薬事業・食品事業 担当)	廣渡 清栄
副社長	(財務・Corporate Communications・ビジネスディベロップメント・D-LAB 担当)	中野 恵
専務執行役員	(国内たばこ事業 CEO)	福地 淳一
常務執行役員	(国内たばこ事業 セールス 担当)	清川 栄一
執行役員	(国内たばこ事業 原料 担当)	小川 千種
執行役員	(国内たばこ事業 マーケティング 担当)	廣末 秀一
執行役員	(国内たばこ事業 パフォーマンス&インテグレーション 担当)	Daniel Torras
執行役員	(国内たばこ事業 渉外 担当)	藤原 卓
執行役員	(国内たばこ事業 製造 担当)	植澤 伸浩
執行役員	(医薬事業部長)	藤本 宗明
執行役員	(医薬事業部 医薬総合研究所長)	角谷 真
執行役員	(食品事業 担当)	古川 博政
執行役員	(General Counsel)	廣瀬 修
執行役員	(経営戦略 担当)	福田 浩之
執行役員	(コーポレートガバナンス・コンプライアンス 担当)	小倉 健資
執行役員	(Chief Sustainability Officer)	妹川 久人
執行役員	(Chief Financial Officer、Corporate Communications 担当)	加藤 信也
執行役員	(People & Culture 担当)	見島 昌行
執行役員	(IT 担当)	下林 央
執行役員	(D-LAB 担当)	大瀧 裕樹

株価の推移 1994年10月27日上場～2023年7月 当社株価（東証終値、月間）



※2006年4月1日を効力発生日として1株につき5株の割合、また、2012年7月1日を効力発生日として1株につき200株の割合で株式分割を実施しました。株価は調整後株価を示しています

日本たばこ産業株式会社

〒105-6927 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号
TEL. (03) 6636-2914 (代表) <https://www.jti.co.jp/>

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに

過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。